2024 年度第 1 回評議委員会議事録

日時：2024 年 9 月 3 日（火）　　評議委員会：13 時 00 分～15 時 00 分

場所：高知工科大学永国寺キャンパス 教育研究棟 A 棟 2 階 A213 及び WEB 会議
出席者：（会長） 岩﨑博史、（幹事）野々村賢一、平田たつみ、颯田葉子、菱田卓、新屋みのり、桝屋啓志、澤村京一、沖昌也、Jeffrey Fawcett、荒木喜美、佐々木真理子、杉本道彦、村山泰斗、一柳健司、藤泰子、遠藤俊徳、宮城島進也、村井耕二、大学保一、池村淑道、中別府雄作、真木寿治、相澤康則、入江直樹、加納純子、鈴木崇之、二階堂雅人、石井浩二郎（第 96 回大会委員長）菅澤薫（第 97 回大会委員長）（順不同、敬称略）、
（評議委員）：角谷徹仁、片山勉、河邊昭、小林武彦、佐渡敬、篠原美紀、那須田周平、深川竜郎、石川隆二、鳥羽大陽、中戸川仁、松浦彰、近藤るみ、鐘巻将人、郷康広、秋山秋梅、加藤太陽、長岐清孝、柴田弘紀（順不同、敬称略）、飯田愛（事務局）

1.岩﨑会長から挨拶があった。
2.報告事項
2.1 岩﨑会長から第 95 回大会以降の物故会員として、（多田政子会員　東邦大学教授、2023.10.21 享年 61 歳） の報告があった。また、IGF の再加入について、今までの経緯が説明された。
2.2 国内庶務幹事報告
平田幹事から日本遺伝学会から推薦した学術賞・研究助成と、その採択結果について報告があった。
2.3 渉外庶務幹事報告
菱田幹事から生物科学学会連合における遺伝学会の活動として「生物教育・大学入試問題検討委員会」の取り組みについて報告があった。新屋幹事からは自然史学会連合についての報告があった。また、次回の遺伝学談話会(名古屋開催)の準備状況の説明があった。
2.4 会計幹事報告
北野幹事に代わりに岩崎会長から 2024 年度の会員数、ならびに 2025 年度の科研費（国際情報発信強化 B、研究成果公開促進費）の準備について報告があった。
2.5 編集幹事報告
桝屋幹事から GGS 副編集長の交代や managing editor の増強など、編集の新体制について説明があった。GGS prize 進捗状況、論文発行状況、投稿状況等の報告があり、APC の値上げにより非会員の投稿数に影響があったと考察された。また、特別号の刊行を企画していること、および 2025 年度の科研費の申請について、準備状況の説明があった。
2.6 企画・集会幹事報告
沖幹事から新たな BP 賞投票システムについて説明があり、今年度は昨年度 BP 賞受賞者と YBP 賞受賞者がプレナリーワークショップで発表との説明があった。Jeff 幹事から今年度の日本から台湾への学生派遣は無し、遺伝学会高知大会に 2 名の台湾の学生を招聘し、大会後には受入先研究室へ訪問予定であると報告された。石井浩二郎大会委員長から、第 96 回大会の準備状況と公開市民講座について報告があった。
2.7 将来計画幹事報告＊別紙 1_参照
杉本幹事から 2020 年に実施した遺伝学会意識調査アンケート後の会員数の推移について説明された。荒木幹事から高知大会で日本遺伝学会将来計画アンケートを実施予定と説明があった。
2.8 男女共同参画推進担当報告
一柳幹事から今年度委員の紹介後、活動は zoom を用いた委員会を 2 回開催していると報告があった。遺伝学会会員および海外研究者対象に育児休業等に関するアンケート調査、第 96 回大会登録時のアンケート調査の結果を第 96 回大会の男女共同参画ランチョンで発表予定と説明があった。
今年度の女子中高生の夏の学校に不参加の説明があり、昨年度に引き続き、Slack を使った委員会運営について報告があった。8 月 30 日開催の男女共同参画学協会連絡会に参加したと報告された。
2.9 遺伝学普及・教育担当報告

村井幹事から 3 月 25 日開催の分科会の報告があり、次回は若手の会と協力し、2日間の開催予定と説明された。YBP 賞受賞者の口頭発表を来年度以降も続けるかについては、第 96 回大会後に審議することとした。また、YBP 受賞者の発表を懇親会でも行いたいと提案があり承認された。
岩﨑会長から、2024 年度日本遺伝学会賞選考について、木原賞は颯田葉子会員、奨励賞は越阪部晃永会員、茶谷悠平会員、鵜木元香会員の 3 名に決定した旨報告があった。
2.10 シニア活性化
真木幹事から高知大会におけるシニアランチョンワークショップの開催説明、GGS Brief Report への投稿勧誘と審査状況について報告があった。
2.11 国際連携幹事
二階堂幹事から今年度委員の紹介後、GSA と共催する Asia-Pacific Genetics Seminar Series や、他国主催の遺伝学会大会（タイ、オーストラリア、韓国）への日本遺伝学会代表会員の参加招聘について報告があった。また、 IGF 再加入について詳細な調査を行い、その結果、再加入すべきであるとの報告がされた。
2.12 広報担当、ホームページ編集報告
宮城島幹事から物故会員についての追悼文の依頼状況について説明があった。
2.13 菅澤薫大会委員長から第 97 回大会（神戸）の準備状況、科研費交付申請等の報告があった。
日程：2025 年 9 月 10 日（水）～13 日（土）（最終日は市民公開講座）
会場：神戸大学六甲台第 2 キャンパス
2.14 岩﨑会長より 2025/2026 年度日本遺伝学会会長及び評議委員選挙の結果が報告された。

3.協議事項
- 沖幹事から第 98 回大会は東京で開催（東京工業大学、岩﨑博史大会委員長）予定である旨説明があり、承認された。
- 北野幹事に代わり岩﨑会長から 2023 年度決算、2025 年度予算案ついて説明があり、2025 年度予算案修正についても審議され承認された。
  その際に、収入より支出が上まっているここ数年の状況について活発に議論され多数の意見があった。
- 平田幹事から会則第 6 条、第 7 条の文言の訂正について説明があり、以下の通り、了承された。
  改)第 6 条　本会は Genes & Genetic Systems を発行する。
  改）第 7 条　本会は毎年 1 回大会を開く。大会は総会と研究発表とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、運営委員候補者の選挙および他の議事を行い、研究発表は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員がする。
- 岩﨑会長より国際遺伝学連携（IGF）への再加入について説明があり承認された。

日本遺伝学会
将来計画幹事報告（杉本、荒木（喜)、佐々木、佐瀬、村山）

報告事項

2021 年度末（2022 年 1-3 月）に遺伝学会会員に対しての意識調査アンケートを実施しました。意図としては、会員数減少をなんとか食い止めるためにはどのような対策を講じることが効果的か、会員の要望や考えを拾い上げることと、学会運営側からのメッセージ（学会としては急速な会員数減少に対して対策が必要と考えていること、学生・若手会員も学会の主役であるとのメッセージ、遺伝学会員になることで得られるメリット（GGS 投稿料の会員割引など)、etc.）を伝えることでした。

アンケート以降の会員数の推移とその変化に関連しそうなイベントを調べてみましたので報告します。

過去 6 年分の会員数の内訳（大会総会資料より）

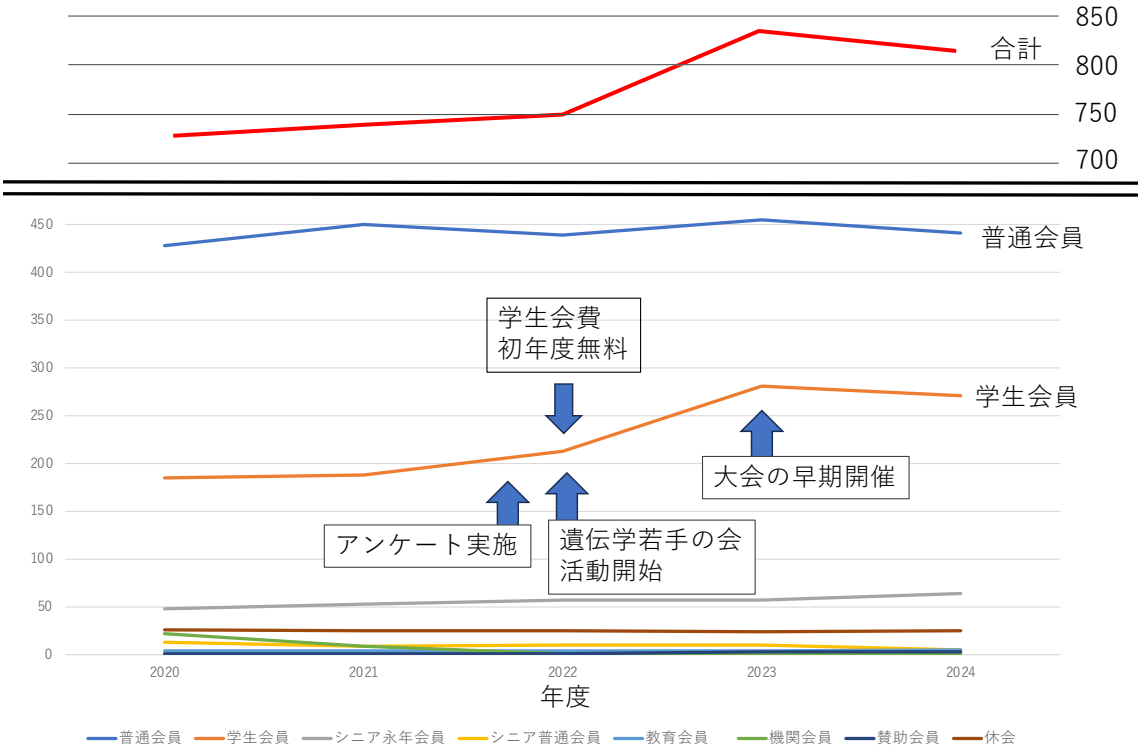
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
普通会員	470	428	450	439	455	441
学生会員	250	185	188	213	281	271
シニア永年会員		48	53	57	57	64
シニア普通会員	シニア会員 42	13	9	10	10	5
教育会員	準会員 3	4	4	4	4	5
機関会員	27	22	9	1	1	1
賛助会員	1	1	1	1	3	3
休会	19	26	25	25	24	25
合計	812	727	739	750	835	815

***2020 年から会員区分の名称が変更**

2020 年度に大きく減少しましたが、2021 年度以降合計会員数は増加傾向にあります。

会員区分が変更されて以降の会員数の推移のグラフを次ページに示します。

2020 年度以降の会員数の推移



2022 年度以降、合計会員数は増加傾向にありますが、内訳を見ると増加分の殆どは学生会員ということが分かります。関係がありそうなイベントとしては、学生会費の初年度無料化、遺伝学若手の会の活動開始、が考えられます。

また、大会開催時期を 2023 年熊本大会より少し前倒しするという取り組みも行いました。現段階ではこの効果の有無に関する分析は難しいですが、学生会員は大会に参加する際に会員登録することが多いので、9 月中旬～下旬よりも 9 月上旬のほうが学生が参加しやすいなにか事情があるのかもしれません。

学生会員の一部でもこの先も継続して遺伝学会に参加し続けてくれるような対策が取れれば、会員数減少をある程度抑えることに繋げられるかもしれません。

2024 年 9 月 3 日
Genes & Genetic Systems
編集委員長
桝屋　啓志

2024 年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議議事概要

開催日時：2024 年 9 月 3 日（火）15 時 00 分～16 時 30 分

会議場所：高知工科大学永国寺キャンパス 教育研究棟 A 棟 2 階 A213 及び WEB 会議

出席者：桝屋啓志、澤村京一、岩崎博史、西原秀典、田嶋敦、中川拓郎、荒木弘之、石井浩二郎、相澤康則、池村淑道、一柳健司、伊藤雅信、鵜木元香、角谷徹仁、要匡、木村亮介、楠見淳子、黒岩麻里、小林武彦、権藤洋一、颯田葉子、志波優、Jeffrey Fawcett、鈴木崇之、高橋文、田中秀逸、中岡博史、中別府雄作、那須田周平、新井田厚司、二階堂雅人、仁木宏典、野々村賢一、平田たつみ、平野博之、藤本明洋、真木寿治、松岡聡、村井耕二、真木智子（編集局長）、（順不同、敬称略）、飯田愛（事務局）

議題

1. 新体制について（未承認の件の承認依頼含む）（桝屋）
2. 発行、投稿、IF 報告（桝屋）
3. APC 値上げ（メール審議済）（桝屋）
4. 報告 DTP 業者変更報告、クレジット業者変更（桝屋）
5. 報告 GGS-HP リニューアル（桝屋）
6. 報告ロゴ商標登録（桝屋）
7. 協議 2024 GGS Prize について（中川）
8. 協議 J-Stage data について（桝屋）
9. 協議 ITA 変更（桝屋）
10. 協議 今後の構想（桝屋）
11. 協議 科研費申請について（桝屋）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

1. ［報告］2024 新体制について（桝屋）

(ア) Editor-in-Chief(編集長):桝屋啓志(理研 BRC)
(イ) Vice Editor-in-Chief(副編集長): 澤村京一(筑波大)
(ウ) Managing Editor:西原秀典(近大)、田嶋敦(金沢大) 、池村淑道(長浜バイオ大)、広海健(遺伝研)
(エ) Reviews Editor: 石井浩二郎(高知工科大)
(オ) GGS Prize Editor: 中川拓郎(阪大)
(カ) 新規編集委員: 松岡聡、新井田厚司、玉木一郎
(キ) ご退任: Managing Editor: 斎藤成也、Editor：朝井計、津村義彦、山西芳裕、
編集顧問：伊藤建夫、米川博通

*未承認だった斎藤成也委員、伊藤建夫顧問の退任が本会をもって承認された。

2. ［報告］2023 年度発行、投稿、IF 報告（桝屋）

（ア）論文発行状況

1. Volume 99 (2024)より、号を廃し、巻=Volume のみとし、公開準備の整った論文から公開。同時に DTP 業者変更
2. Volume 99 (2024)発行状況

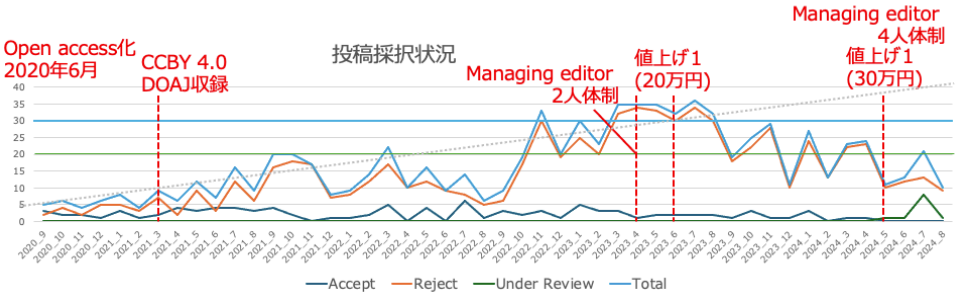
全掲載論文数	Review	Full	Short/Brief	Other
9	1	5	2	1

3. Volume98 (2023)発行状況

号	全掲載論文数	Review	Full	Short/Brief	Other	公開日
1	5	1	4	0	0	2023.6.23
2	5	0	3	2	0	2023.9.5
3	4	3	0	0	1	2023.9.30
4	5	0	4	1	0	2023.10.4
5	8	0	4	2	2	2023.11.21
6	6	4	0	1	1	2023.12.1
合計	33	8	15	6	4	

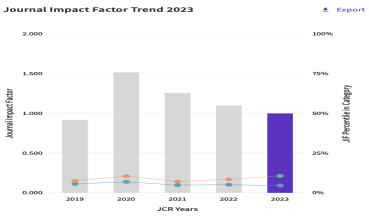
（イ）論文投稿状況（9/1-8/31 集計。2024.8.20 現在）

	Accept	Reject	Under Revie	Total	Accept/Total
2020-2021	32	60	0	92	0.347826087
2021-2022	26	139	0	165	0.157575758
2022-2023	29	310	0	339	0.085545723
2023-2024	11	204	11	226	0.048672566



（ウ）Impact Factor

	1-year	5-year
2023	1	1.4
2022	1.1	1.5
2021	1.258	1.34
2020	1.517	1.434
2019	0.917	1.114



3. ［報告］APC 値上げ（メール審議済）（桝屋）

2024.5.1非会員 APC を 20=>30 万円に値上げ。会員は 10 万円のまま。

4. ［報告］DTP 業者変更報告、クレジット業者変更報告（桝屋）

① 2023.9 月まで仕様書作成、作業内容の整理、クレジット代行を別契約とする

② 2023.10 月　見積合わせ
株式会社ジェイピーシーを選定。Volume 98 で従来業者との契約を終了し、99 より新業者とする。

③ 2024.4 月　新業者作業開始。号廃止の新ワークフロー。当初ミス等が多くフローの見直し等を経て、現在に至る。

④ 掲載料クレジット業者変更。掲載料のクレジット手数料をアナウンス通りに投稿者に請求こととした。

*論文情報のバックアップ、安全面に対して確認するように意見があった。

5. [報告] GGS-HP リニューアル報告（桝屋）
① 業者：レタープレス（従来通り）
② 新機能：ページ構成、デザイン、最新発表論文の自動反映

6. [報告]ロゴ商標登録報告　商標登録 2024.2.29 完了（桝屋）

7. [協議] GGS PRIZE 受賞論文選考（中川）
中川委員より 3 編を最終候補とした経緯及び論文の内容の説明があった。審議の結果、3 編を 2024 年度 GGS prize と決定した。

●Title
Unveiling the expansion of keratin genes in lungfishes: a possible link to terrestrial adaptation.
Authors
Yuki Kimura, Masato Nikaido*
Published in Genes & Genetic Systems 2023 98(5)249-257.

●Title
SARS-CoV-2 HaploGraph: visualization of SARS-CoV-2 haplotype spread in Japan.
Authors
So Nakagawa*, Toshiaki Katayama, Lihua Jin, Jiaqi Wu, Kirill Kryukov, Rise Oyachi, Junko S Takeuchi, Takatomo Fujisawa, Satomi Asano, Momoka Komatsu, Jun-ichi Onami, Takashi Abe*,Masanori Arita*
Published in Genes & Genetic Systems 2023 98(5)221-237.

●Title
Promoter generation for the chimeric sex-determining gene *dm-W* in *Xenopus* frogs.
Authors
Shun Hayashi, Kei Tamura, Daisuke Tsukamoto, Yusaku Ogita, Nobuhiko Takamatsu, Michihiko Ito*
Published in Genes & Genetic Systems 2023 98(2)53-60.

＊来年度の GGS Prize に向けての議題として、過去３年ではなく２年間に発表された論文の中から GGS Prize を決定するかどうかは、引き続き検討し、メール審議にて結審するとした。
また、Review paper を GGS Prize の対象論文から除き、賞を別に設ける事とした。
Handling Editor の負担軽減については多数の意見があったが引き続き検討していく。

8. ［協議］ J-Stage data について（桝屋）
『「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」におけるメタデ ータの共通項目 』https://www8.cao.go.jp/cstp/common_metadata_elements.pdf について、今後学会誌の責任において記入が求められていく模様。GGS として、査読過程でこのようなメタデータ編集等は極めて困難では無いかと考えられる。一方、JST は、「著者が登録したメタデータは不完全・不十分な場合が大半で、データの公開にあたっては、ジャーナルにおいて公開前に確認・修正が必要」と考えている模様。
＊協議後、情報共有で終了とした。

9. ［協議］ ITA 変更（桝屋）
Materials and Method に使用した研究材料の ID 明確に記すように求める。さらに下に Data Availability の項目を追加し、データへアクセスする方法を明確に記述するよう求める。

1. 元の文章

Materials and Methods

The description of the methods should be brief, but it must include sufficient details to allow the experiments to be repeated. The sources of unusual chemicals, plants, water, soils, microbial strains, animals or equipment should be described, and the location (city, country) of the company should be provided in parentheses. If hazardous materials or dangerous procedures are used in the experiments and the precautions related to their handling are not widely recognized, it is recommended that the authors provide the necessary details.

2. 変更案

Materials and Methods

The methods section should be concise yet detailed enough to enable other scientists to reliably reproduce the experiments. To support this, GGS requires authors to use Research Resource Identifiers (RRID: https://www.rrids.org/resources) or other identifiers from public bioresource repositories for organisms, cells, genetic clones, antibodies, tools, and more. When using unusual chemicals, plants, water, soils, microbial strains, animals, or specialized equipment, the sources must be provided, including the company's location (city, country) in parentheses. As stated in the Author Responsibility, a brief statement identifying the institutional and/or licensing committee that approved the animal/human experimentation of the study must be included in this section.

Data Availability

The data availability statements provide a standardized format for readers to understand the availability of the data underlying the research results presented in the paper. In the Data Availability section, authors should describe how to access the original data generated during the study or any third-party data analyzed in the paper, either by providing a link to the data or the necessary unique identifier.

＊協議後、承認された。

10. ［協議］ 今後の構想（桝屋）

Special Issue（特集号）の企画

号は廃しているので、Full paper, special review 等のカテゴリを一時的に設定する等して、特集号を刊行する。シニア会員の先生方にも協力を要請した。これらの計画は、下記科研費申請にも計画として含める。

① Database issue: NAR database issue が、招待制となってしまったため、特にアジア圏で公開されているデータベースが掲載されにくくなってしまった。その受け皿として。国内各データベースに声がけ可能。

② バイオリソース特集：NBRP との連携等で可能。

③ 遺伝学分野の歴史や教育記事と最新研究とを組み合わせた特集号

11. ［協議］ 科研費申請について（桝屋）

2024.9.18 締切の科研費（国際情報発信強化 B）について、国際連携幹事とも協力の上検討中。IGF 加入を前提に、国際的なコラボレーション、グローバルネットワークをさらに拡大し、科学の将来を担う若手教育向けコンテンツの大幅強化を行う、という内容。ドラフト案では、2028 年南アフリカで開催の国際遺伝学会議(ICG)への協力と連携を足がかりに、1) 2008 ICG のプロシーディング、特集号や IGF 機関誌的役割を GGS が獲得することを目指す。2) GGS の若手教育向けコンテンツの大幅強化を行い、遺伝学分野の歴史や教育記事と最新研究とを組み合わせた特集号、また、データベースやバイオリソース等、国内やアジア・オセアニア・アフリカ等の生命科学研究基盤に関する特集号等を、上記で計画する国際イベントとタイミングを合わせて発行する。

12. その他のご意見

木原賞受賞者にも GGS への執筆を再度依頼する。

日本遺伝学会第96回大会総会議事録

日時：2024年9月6日（金）14時00分～14時35分

場所：高知工科大学永国寺キャンパス　教育研究棟A104（オンサイト会場）A105（ミラーリング会場）

出席者　岩﨑博史会長、幹事他80名

1. 議長選出
   議長に佐渡敬会員（近畿大学）、藤泰子会員（東京工業大学）が選出された。
2. 石井浩二郎大会委員長の挨拶があった。
3. 岩﨑博史日本遺伝学会会長挨拶並びに報告がされた。（2024年度第3回幹事会/第1回評議委員会議事録参照）
4. 工樂樹洋選挙管理委員長より2025・2026年度日本遺伝学会会長及び評議委員選挙の票結果を8月9日に確認した旨報告された。その際に会員から「次期会長選挙のページにもう少し詳しい説明が必要」との意見があった。その後、時期会長の角谷徹仁会員より挨拶があった。
5. 議事
   ① 2023年度会計決算について
   北野潤会計幹事に代わり岩﨑博史会長から総会資料にもとづき説明がされた。
   また、仁木宏典会計監査から、事前に仁木宏典会員、久保郁会員が伝票領収書等を確認し、5月23日にWEBにて会計監査を実施した結果、2023年度の会計は適正に行われている旨の報告があり、承認された。
   ② 2025年度予算案について　別紙1_参照
   岩﨑会長から、総会資料と2025予算案修正資料にもとづき説明があり、予算通り承認された。
   ③ 会則、第 6 条、第 7 条の文言の訂正について 別紙1_参照
   岩﨑会長から説明があり、以下の通り、了承された。
   改)第 6 条　本会は Genes & Genetic Systems を発行する。
   改）第 7 条　本会は毎年 1 回大会を開く。大会は総会と研究発表とに分け、総会では会務の報告規則の改正、運営委員候補者の選挙および他の議事を行い、研究発表は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員がする。
   ④　第98回大会について
   沖幹事から、第 98 回大会の東京開催について報告があり、承認された。
   ⑤ 国際遺伝学連携（IGF）への再加入について
   岩﨑会長から国際遺伝学連携（IGF）への再加入について経緯と説明があり承認された。
6. 第96回大会Young Best Poster(YBP)賞受賞者
   鵜飼優葉会員、内田友夏会員、尾尻龍星会員、兵度友誉会員、古川研人会員
   矢野智大会員、山口颯太会員が YBP 賞を受賞したと発表された。
   第96回大会Best Papers(BP)賞受賞候補者
   川瀬雅貴会員、久世陸会員、杉本道彦会員、高鳥直士会員、二階堂雅人会員、西嶋遼会員、橋本陽太会員、鳩山雄基会員、原雄一郎会員、Huong Ta会員、米秀之会員、若林妙恵会員がBP賞受賞候補者として発表された。
7. 第 97 回大会委員長挨拶として、菅澤薫次期大会委員長より第 97 回大会（神戸）は 2025 年 9 月 10 日(水)-12 日(金)を神戸大学六甲台第 2 キャンパスにて開催予定と報告された。（9 月 13 日（土）は公開市民講座を開催）

日本遺伝学会木原賞、奨励賞授与式記録

総会終了後、木原賞受賞者（颯田葉子会員）と奨励賞受賞者（越阪部晃永会員、茶谷悠平会員、鵜木元香会員）が表彰された。授与式終了後に木原賞、奨励賞受賞講演が行われた。

別添資料Ⅰ

2025年度予算案

A 収入　（単位円）

摘要		決算	
1. 学会費		4,400,000	
2. 賛助会費		140,000	
3. 科学研究費補助金		0	
4. 事業収入		3,350,100	
	掲載料		3,350,000
	利息		100
5. 雑収入		130,000	
小計		8,020,100	
6. 繰越金		20,799,183	
総計		28,819,283	

B 支出　（単位円）

摘要		決算	
1. 事業費		4,380,000	
	雑誌製作費		1,900,000
	大会補助費		1,000,000
	学術集会事業費		300,000
	大会学生旅費補助		800,000
	協力委員会分担金		80,000
	若手の会補助費		300,000
2. 評議委員会／幹事会費/委員会費		300,000	
3 事務費		4,440,000	
	雑誌発送費		40,000
	編集経費		3,500,000
	事務局経費		900,000
4. 学会賞関係費		400,000	
5. 謝金		1,200,000	
6. 特別事業費		1,200,100	
	国際シンポジウム		1,000,000
	その他		200,100
小計		11,920,100	
7. 次期繰越金		16,899,183	
総計		28,819,283	

会則の改定

現行	改定案
第6条	第6条
本会は~~隔月1回~~Genes & Genetic Systemsを発行する。	本会はGenes & Genetic Systemsを発行する。
第7条	第7条
本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と~~講演会~~とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、運営委員候補者の選挙および他の議事を行い、~~講演会~~では普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員の研究発表をする。	本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と研究発表とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、運営委員候補者の選挙および他の議事を行い、研究発表は普通会員、シニア普通会員、シニア永年会員、学生会員、教育会員および名誉会員がする。